

○ 本校の概要

○平成28年度に開校140周年を迎えた歴史のある学校である。学校規模は児童278人（9月1日現在）、通常級は10学級で、難聴・言語障害学級を併設している。  
 ○平成27年度より大田区ICT活用推進モデル校としてICTを活用した指導法を研究している。本年度の研究テーマは、昨年度に引き続き「ICTを活用し、進んで伝え合いかわりを深める児童を育成する指導法の工夫」である。学校の課題である基礎学力（特に基本的な思考力・判断力・表現力）の育成のために、ICTを活用した授業改善を推進している。  
 ○地域や保護者も学校に協力的であり、地域の人材や環境を活用した様々な教育活動を展開している。（菊作り、のり付け体験、町工場見学、夏のわくわくスクールなど）

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:学期末の国語と算数のまとめテストで達成度90%以上の児童の割合が80%以上	国 2.5 算 1.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中の三者面談で実施している。</li> <li>・チェックシートは、学期末に「あゆみ」に同梱して周知を図っている。</li> <li>・学級担任・算数少人数担当・学習指導講師と連携を密にし、協力して確実に補習指導を行った。</li> <li>・外国語教育指導員の活用については、English Caféの参加率が課題。割り当て学級を決めるなどの対応策を検討する。</li> <li>・授業改善推進プランについて、本校では作成後、夏季休業中に校内研修会を開き、改善プランについて周知を図っている。意識して各教科の指導に生かしていく。</li> <li>・成果指標について、設定値が本校の実態に合っていないため、見直しをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善推進プランを周知させても、すぐに授業に生かせるかという点、難しいような気もする。</li> <li>・「上記取組をした児童の姿容」では、学力の定着に不安を感じた。復習の大切さを感じ、家庭での協力も必要だ。</li> <li>・ご苦労様です。</li> <li>・学校公開では、各学年先生方の工夫ある授業が見られました。</li> <li>・一人一人と正面から向かい合っ、遅れがある子どもでも楽しく授業ができるような工夫をしていました。補習、少人数で底上げをして、皆で学力向上を目指しています。</li> </ul>
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:学期末の国語と算数のまとめテストで達成度90%以上の児童の割合が65%以上80%未満			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:学期末の国語・算数のまとめテストで達成度90%以上の児童の割合が50%以上65%未満			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:学期末の国語・算数のまとめテストで達成度90%以上の児童の割合が児童の割合50%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:学期末の国語と算数のまとめテストで達成度90%以上の児童の割合が80%以上			
		児童一人ひとりの学びを深めるため、子供同士の協働や、教師や地域の方などとの対話を取り入れた授業を実施する。	3:学期末の国語と算数のまとめテストで達成度90%以上の児童の割合が65%以上80%未満			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:不登校児童の発生率が1%未満	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の児童理解朝会や毎月の特別支援校内委員会、適時行うケース会議、難言教室のケース会議により、児童の諸問題について組織的に対応している。必要に応じて、SCや、スクールソーシャルワーカー・児童相談所・子ども家庭支援センターなど外部の組織とも連携を密にして対応している。今年度は都の不登校対策モデル校として、コーディネーターが保護者や児童との面談、朝の迎え、不登校児の学習支援などをし、児童理解、家庭支援、登校の支援を有効に実施でき、不登校傾向の児童にも改善が見られた。</li> <li>・たてわりの活動として、毎月1回朝の集会時に「たてわり遊び」、学期に1回「たてわり給食」を実施した。他にも、2学年による異学年の「交流遊び」を実施した。取組により児童間の交流が深まったり、高学年の成長が見られたりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の心の問題は、学校全体で取り組む課題で、小さなことでも隠すことなく情報を共有してほしい。スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、不登校対策コーディネーターなど、児童を取り巻く環境は整っています。今後も期待しています。</li> <li>・先生方のきめ細かい指導が見え、子どもたちも思いやりの心が育つと思います。</li> <li>・毎年児童数が増え、たてわりでの活動も難しくなっているかと思えます。一人っ子や兄弟姉妹の少ない児童は、年の違う子と関われる良い機会でもあり、色々な考え方を学ぶことができると思うので、ぜひ続けてほしいです。</li> <li>・糀谷中学校、糀谷小学校と違い本校は人数が少ないことで、皆が顔を分かっているのが、横・縦のつながりが強いと思います。上級生と下級生の絆が強く、信頼関係ができています。</li> </ul>
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:不登校児童の発生率が1%以上2%未満			
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3:不登校児童の発生率が2%以上2.5パーセント未満			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:不登校児童の発生率が2.5%以上			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:不登校児童の発生率が1%未満			
		たてわり班の活動を通して、他者と協力して物事をやり遂げる力や思いやりの心を育てる。	3:不登校児童の発生率が1%以上2%未満			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:児童アンケートの「体育の学習と外遊びが好きですか。」の質問に対し、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童の割合が90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一校一取組」として金曜日体育朝会・なわとびタイム（前期）・マラソントime（後期）を実施している。全教員で参加し、児童を励ましたり安全を確保したりして取り組んだ。</li> <li>・食育については、家庭科のある高学年だけでなく、全学年を通して学級担任も意識的に食育を進めるために、1年生保護者対象に実施している給食試食会での栄養士の話の内容や、献立の工夫を児童にも指導していくなどして、改善を図る。</li> <li>・体育的朝会で児童全員が最後まで跳んだり走ったり続けられていることはよい実態である。一方で、児童数の増加に伴い、安全が確保されるよう実施方法を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上に向けての取組が、児童にとって負担ではなく、楽しみながらできていると感じられた。</li> <li>・しっかりと体力を蓄え怪我も恐れず、昔のような思い切った運動会ができることと良いこと…願望。</li> <li>・塾などで運動の時間が無い児童には学校での運動は貴重かと思えます。たくさん運動すると食欲も増し、病気がなくなるかと思えます。お友達と楽しくする運動はどんな子も大好きかと思えます。</li> <li>・授業だけではなく、休み時間にも体を動かし楽しんでいるところを見ます。学校が終わると公園でもゲームをする子どもが増えているので、体力向上としてどんどん行ってもらいたいです。</li> </ul>
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:児童アンケートの「体育の学習と外遊びが好きですか。」の質問に対し、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童の割合が80%以上90%未満			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:児童アンケートの「体育の学習と外遊びが好きですか。」の質問に対し、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童の割合が70%以上80%未満			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:児童アンケートの「体育の学習と外遊びが好きですか。」の質問に対し、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童の割合が70%未満			
		全校による体力向上の取り組みとして、金曜日の朝会時間に体育的朝会を実施する。	4:児童アンケートの「体育の学習と外遊びが好きですか。」の質問に対し、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童の割合が90%以上			
		児童アンケートの「体育の学習と外遊びが好きですか。」の質問に対し、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童の割合が80%以上90%未満	3:児童アンケートの「体育の学習と外遊びが好きですか。」の質問に対し、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童の割合が70%以上80%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:学校公開時の保護者による授業評価で「子どもたち一人一人の活動が充実していた。」という質問に対し、「よくあてはまる」と回答した保護者の割合が60%以上	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全主任教諭・主幹教諭が年間1回講座を開き、計画的に実施している。その他にも、それぞれの専門分野や研修を受けた事柄について適時校内研修会を行っている。</li> <li>・学級担任・専科担任は毎日のようにICT機器を活用している。難言教室は個別学習などでも有効となる活用の仕方を取り入れていく。</li> <li>・地域の人材や外部の専門家などを講師とした講演会や授業として、例年実施しているものの他に、オリ・パラ教育として今年度は「トップアスリートと未来へチャレンジ」事業で体操のオリンピックの授業を実施。他にも、サッカーのオリンピックの授業、バラスポーツの学習としてポッチャ体験、シッティングバレー体験を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境向上のために、積極的に仕事を計画し取り組む教諭の方々の熱意と充実をまず結果だと思いた。</li> <li>・社会科見学会や専門の方の講演会の授業は子どもたちの知識が増えて良いと思います。その話を聞いて親も勉強になりました。</li> <li>・ICT機器を早くから導入していただいたので、子どもたちも楽しみながら授業を受けていると思います。子どもたちも一緒にできることが昔と違いすばらしいと思います。</li> </ul>
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:学校公開時の保護者による授業評価で「子どもたち一人一人の活動が充実していた。」という質問に対し、「よくあてはまる」と回答した保護者の割合が50%以上60%未満			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:学校公開時の保護者による授業評価で「子どもたち一人一人の活動が充実していた。」という質問に対し、「よくあてはまる」と回答した保護者の割合が40%以上50%未満			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:学校公開時の保護者による授業評価で「子どもたち一人一人の活動が充実していた。」という質問に対し、「よくあてはまる」と回答した保護者の割合が40%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:学校公開時の保護者による授業評価で「子どもたち一人一人の活動が充実していた。」という質問に対し、「よくあてはまる」と回答した保護者の割合が90%以上			
		児童の関心や意欲を喚起するために、地域の人材や外部の専門家などを講師とした、講演会や授業を実施する。	3:保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が80%以上90%未満			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子は毎日更新している。</li> <li>・地域教育連絡協議会では、学校の取組を写真などを交えながら伝えたり、アンケート結果から児童の実態が伝わるようにしたりしている。</li> <li>・学校支援地域本部に調整を依頼することで、「わくわくスクール」では本校保護者以外の方の団体の協力もいただけるようになった。他にも、朝の読み聞かせをやるようになった。</li> <li>・家庭学習の定着のために、保護者会ですべての取組である「宿題5のやくそく」について協力を求め、特に低学年に重点を置いて指導していく。</li> <li>・学年により関わる地域組織は変わるが、適切に情報交換を行い、指導に生かしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の情報を詳しく適切に提供していたらいいと感じています。</li> <li>・夏のわくわくスクールは子どもの夏休みの楽しみで、たくさんの講座が増え助かっています。</li> <li>・家庭学習をさせたい気持ちはあっても、宿題以外でどのように進めたらよいか？と悩む親が多いかと思えます。先生方からアドバイスいただけたら嬉しいです。</li> <li>・北糀谷は小さな町ですが、学校・地域がとて密になり子どもたちのために動いてくれています。いろいろな大人が子どもたちを見守ってくれることで、子どもたちも礼儀を覚え、約束、決まりごとの大切さを学んでいると思います。</li> </ul>
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が80%以上90%未満			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が70%以上80%未満			
		児童に合った課題の提供や保護者への啓発を通して、家庭学習の定着を図る。	1:保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が70%未満			
		町会や青少年対策委員会、放課後子ども教室、地域のスポーツチームなどとの連携を深め、放課後や休日の子どもたちの情報を得て、学校教育に生かす。	4:保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が90%以上			
		保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が80%以上90%未満	3:保護者による学校評価で「学校は、地域の力を子供たちの教育活動に生かしていますか。」の質問に対して、「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答した保護者の割合が70%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。